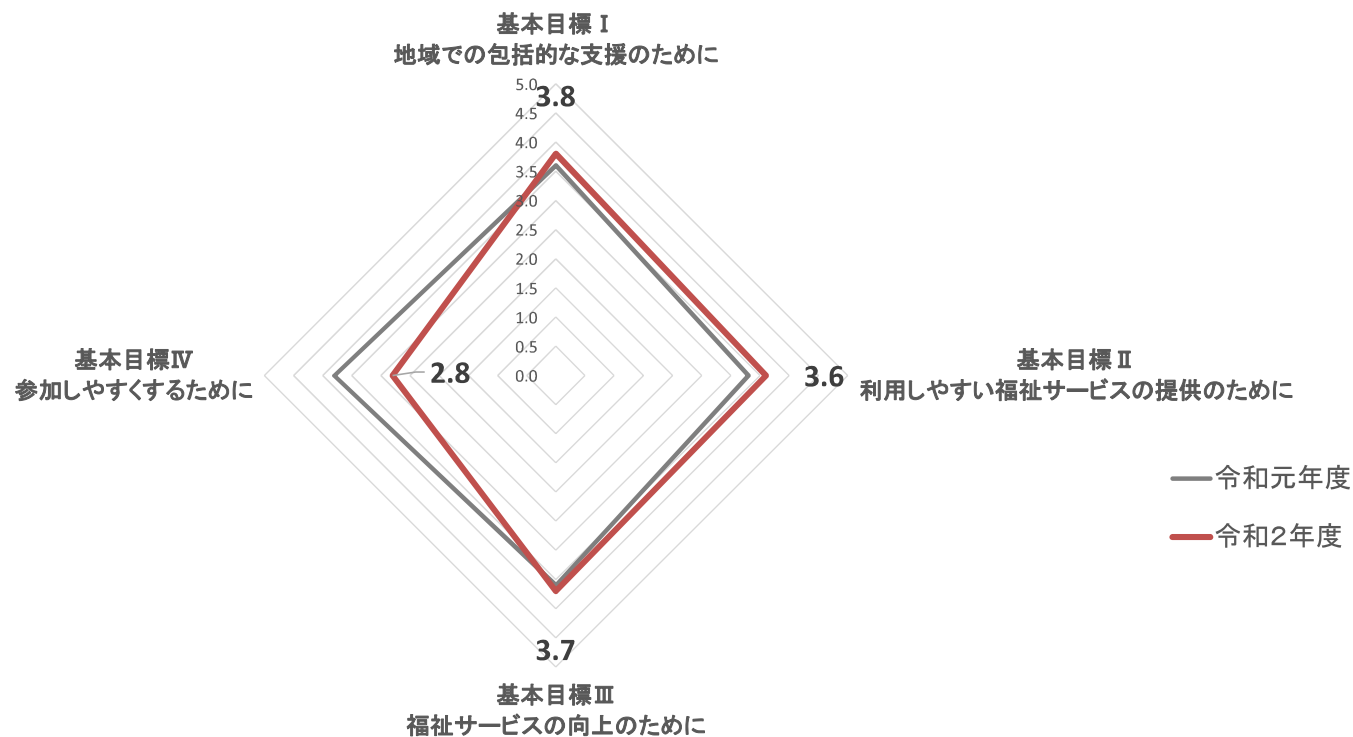


◆第3期唐津市地域福祉計画 基本目標ごとの達成度状況

基本目標	事業項目ごとの自己評価点								基本目標ごとの自己評価平均点				
	事業No. 1,9,16,20	事業No. 2,10,17,21	事業No. 3,11,18,22	事業No. 4,12,19,23	事業No. 5,13,24	事業No. 6,14,25	事業No. 7,15,26	事業No. 8,27	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基本目標Ⅰ 地域での包括的な支援のために	3.5	4.0	4.0	4.5	4.0	4.0	3.5	3.0	3.6	3.8			
基本目標Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために	4.5	3.5	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0		3.3	3.6			
基本目標Ⅲ 福祉サービスの向上のために	4.0	3.8	4.0	3.0					3.6	3.7			
基本目標Ⅳ 参加しやすくするために	3.5	3.0	3.0	2.0	3.0	3.5	2.0	2.0	3.8	2.8			



様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況			
				自己評価								R 1	R 2	R 3	R 4
1 他分野・他機関連携体制の整備	1	福祉総合相談支援体制の整備	福祉総務課	福祉総合相談窓口の設置	目標	実施方法の検討	担当課協議	予算の確保	設置	実施	—	相談支援業務を所管する関係各課で構成する福祉総合相談支援体制検討会議を開催した。また、重層的支援体制整備事業に関係する現行事業について整理を行った。 他市の取り組み状況を調べた結果、佐賀市のみ令和3年度より重層的支援体制整備事業への移行準備事業に取り組みとのことであった。 現行の相談窓口体制と業務内容について確認作業を行い、現行事業の内容や予算上の整理を行うことができた。	3.5	順調に進んでいる ①総合相談窓口のあり方として、国が示す重層的支援体制整備事業に取り組み必要があるか、引き続き検討する必要がある。 福祉総合相談支援包括化推進員について、直接雇用が事業委託を行うか検討が必要である。 令和4年度の市役所新庁舎の供用開始に合わせ、引き続き検討を行っていく。 令和3年度については、相談支援業務を行っている相談員を対象にヒアリングを行い、現行の相談支援体制における課題や改善点について情報共有を図る。	
					実績	検討中	実施								
					達成度	75%	75%								
				福祉相談支援包括化推進員の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	委託先の選定	設置	実施					—
					実績	検討中	検討中								
自己評価					3.0	3.5				点					
2 地域医療・福祉の充実	2	生活支援体制整備事業	地域包括支援課	地域協議体（地区）	目標値	27	27	27	27	27	協議体	地域協議体の開催支援や高齢者アンケート調査の結果から、通いの場の充実や有償ボランティア、見守りマップ、災害時の避難マニュアルなど地域ごとに取り組み内容を検討・実施し、地域ごとに介護予防のための運動教室（100歳体操）や有償ボランティアなど支え合い活動が推進できた。	4.0	順調に進んでいる ①地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施できるしくみづくりと、コロナ禍での地域協議体の開催や支え合い活動の方法 ②地域協議体の取り組みや活動を知ってもらい、可能な範囲で参加・協力をしてほしい。	
					実績値	25	27								
					達成度	93%	100%								
				生活支援コーディネーター	目標値	14	14	14	14	14	人				
					実績値	12	12								
					達成度	86%	86%								
				自己評価					3.0	4.0					
3 在宅医療・介護連携推進事業	3	在宅医療・介護連携推進事業	地域包括支援課	多職種研修会	目標	2	2	4	4	4	回	相談対応：「在宅医療・介護連携支援センター」月平均10件 会議開催：在宅医療・介護協議会ワーキンググループ委員会11回、訪問看護部会6回 情報共有：退院支援ルールアンケート実施 研修会の開催：多職種連携研修会（web）1回参加者約400人 住民への普及啓発：いきかたノートの配布、唐津市長、玄海町長、医師会長の三者会談、番組作成・放送 ワーキンググループ委員会での取り組みを通して顔の見える関係づくり、ネットワークづくりが出来た。 いきかたノートの配布時や説明会、いきかたノートの行政放送等を通して、在宅医療と介護連携について地域住民の理解を図った。 R2年度説明会12回開催、参加者180人	4.0	順調に進んでいる ①コロナ禍の多職種研修会や地域住民への普及啓発の取り組み方法。 ・WEBや行政放送などを活用した研修、普及啓発 ・いきかたノートを活用した普及啓発 ②在宅医療・介護連携について関心を持ち、理解を深めてほしい。	
					実績	3	1								
					達成度	150%	50%								
				ワーキンググループ委員会	目標	—	—	12	12	12	回				
					実績	—	11								
自己評価					4.0	4.0				点					

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況								
				自己評価								R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）			
2 地域医療・福祉の充実	4	離島診療所の医師及び看護師確保	保健医療課	離島診療所の医師数 ⇒神集島1人 高島 1人 加唐島1人 馬渡島1人 小川島1人	目標値	5	5	5	5	5	人	高島診療所の常駐医師確保を引き続き行ったが、常駐医師確保に至らなかった。昨今の医師不足など、辺地、離島等における医師が困難な中、遠隔診療を始めとした新たな診療体制について協議を行った。	4.5	順調に進んでいる ①シフト制の医療体制に移行したため、今後どのような診療体制にするか協議が必要。 医師不足による医師確保が厳しい中、従前どおり医師確保をし医療体制を構築するか否かを含め、今後の離島の診療体制について抜本的な方針を見直す必要がある。						
					実績値	4.8	4.7													
					達成度	96%	94%													
				離島診療所の看護師数 ⇒神集島2人 高島 1人 加唐島1人 馬渡島2人 小川島1人	目標値	7	7	7	7	7					人					
					実績値	7	7													
					達成度	100%	100%													
自己評価				4.5	4.5				点											
3 地域の見守り体制の充実	5	小地域福祉活動推進事業補助金	福祉総務課	福祉員設置数	目標	891	891	おおむね50世帯に1人	おおむね50世帯に1人	おおむね50世帯に1人	人	小地域における福祉のリーダーとして活動する福祉員の活動費に対し補助を実施した。また、福祉員の活動や必要性を周知するため、市報で活動内容を紹介するなど情報発信を行った。 新型コロナウイルス感染防止の工夫を行いながらサロン活動や体操教室を実施するなど、コロナ禍の中で、引きこもりがちの高齢者や不安を抱える地域の方などに対し福祉員がサポートを行うことで住民相互の助け合い活動や交流事業の推進に繋がった。	4.0	順調に進んでいる ①未だ福祉員を配置出来ていない地域があるため、全域に最低1名は配置できるよう、福祉員の必要性等を周知していく必要がある。						
					実績	857	858													
					達成度	96%	96%													
				自己評価				4.0	4.0							点				
				6	民生委員費	福祉総務課	民生委員定数	目標	336	336	336				一斉改選	定数見直し検討	人	民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることもあり、委員の負担が増えている。それに伴い活動する際に個人に係る費用負担も増加していることもあった。そこで、令和2年度から活動費や協議会に対し市からの補助金を増額した。 新型コロナウイルス感染防止の工夫を行いながら相談や研修会を実施するなど、コロナ禍の中でもできることを行うことで活動の推進に繋がった。	4.0	順調に進んでいる ①民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることから、委員に対し適切な情報提供を行うなど、活動を支援していく必要がある。 新型コロナウイルス感染防止に配慮した民生委員活動を検討する。 市への問い合わせにおいて窓口を一本化し、その窓口において事案に応じた対応を速やかに確認することができる体制を整える。
								実績	335	335										
達成度	99%	99%																		
研修会への参加	目標	112	112				112	112	112	人										
	実績	125	125																	
	達成度	117%	117%																	
自己評価				4.0	4.0				点											

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				自己評価		R 1	R 2	R 3				R 4	R 5	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）
3 地域の見守り体制の充実	7	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討	福祉総務課 生涯学習文化財課	地域の見守り拠点の設置	目標	検証	130	145	145	145	箇所	市立公民館及び地区公民館において、地域住民の交流の場、見守りの場として、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操事業を展開・支援した。なお、市立公民館25館では、新型コロナウイルス感染防止のため、公民館を休館したり地域行事の中止があったが、感染対策を講じながら主催講座やサークル活動を行った。 地域住民に身近な公民館で、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操が開催されることで、地域住民の交流と見守り活動を実施することができた。 公民館講座内容を見直し、新しい講座開催をしたことにより、地域住民の交流が広がった。	3.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①新型コロナウイルス感染対策を講じながら、講座や行事を実施・支援し、地域住民の交流の場としているが、見守り拠点としての意識付けが必要である。 ②地域行事へ積極的に参加する、または呼びかけを行うなど、住民同士の顔が見える関係づくりをお願いします。
					実績	実施	141							
達成度	50%	108%												
				自己評価	3.0	3.5				点				
8	学校・家庭・地域社会の連携強化	学校教育課 学校支援課	外部人材の活用	目標	10,000	12,732				人	第一中学校校区の3校（第一中学校、長松小学校、大志小学校）において、コミュニティスクールが設置されており、中学校における面接指導や、小中学校における授業へのゲストティーチャーとしての活動を行った。各小中学校では、地域の方の協力を得て、農業体験や海洋学習を行ったり、地域の文化を学ぶ学習などを行った。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、中止せざるを得なかった活動等も多かった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①年間を通じて、各学校の教育活動における、家庭・地域への情報発信、協働した活動を積極的に行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、外部人材の活用が令和元年度の半分ほどになった。今後も感染状況を注視しながら、地域人材の活用を勧めたいと思っている。 コミュニティスクールに関しては、推進するのに人材確保等の課題がある。	
				実績	12,732	6,679								
達成度	127%	52%												
				自己評価	3.0	3.0				点				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標	実績	達成度	自己評価	自己評価	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）						
4 情報提供の充実	9	唐津市保健福祉ガイドブック(仮称)の発行	福祉総務課	ガイドブックの発行	目標	掲載内容及び発行方法の検討	発行	—			—	平成22年に発行した保健福祉ガイドブックと、令和2年1月に発行された唐津市くらしのガイドの掲載内容について、比較検討を行った。 保健福祉ガイドブックと唐津市くらしのガイドの掲載内容の重複や追加記載の必要性について検証することができた。	4.5	順調に進んでいる ①唐津市くらしのガイドへの集約を検討する。令和3年度は、ガイドブックの発行方針について決定したい。また、冊子形態以外の情報提供手段についても検討を進める。	
					実績	検討中	検討中								
					達成度	75%	75%								
				自己評価	4.0	4.5			点						
5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	保健医療課	職場外研修の受講	目標値	6	6	6	6	6	回	新任保健師研修会6名・中堅保健師研修会3名・市町村保健師管理者能力育成研修会・九州ブロック保健師等研修会・九州地区母子保健指導者研修会・日本公衆衛生看護学会はコロナのため中止等で受講が出来なかった。しかし、職場内研修の機会として保健事業連絡会の実施できた。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①相談業務は様々なケースがあり、経験年数が少ない職員の育成が課題である。 地区担当制及び業務担当制をとおし、職員育成を推進していく。（共に訪問等の相談業務にあたることにより後輩職員が先輩職員から学ぶ場を作っていく）	
					実績値	6	2								
					達成度	100%	33%								
				職場内研修(保健事業連絡会)の実施	目標値	12	12	12	12	12	回				
					実績値	11	10								
					達成度	92%	83%								
				自己評価	4.0	3.0			点						
				子育て支援課	家庭児童相談員及び母子父子自立支援員に関する研修の受講	目標	4	4	4	4	4				
			実績			4	4								
			達成度			100%	100%								
			自己評価	3.0	5.0			点							
			障がい者支援課	研修等への参加	目標	12	12	12	12	12	回	相談支援事業のスキル向上のための従事者研修企画・検討委員会に参加。相談支援従事者研修に向けた打合せに4回参加、研修会講師として3日間参加。支援学校の就学就労フォーラム、相談支援事務連絡協議会への参加。 相談支援事業従事者研修企画・検討から関わり、講師として3日間務めることにより県内の相談支援発展のための役割を担うことができた。また、支援学校の就学就労フォーラム、相談支援事務連絡協議会への参加により相談員としての資質向上に努め、他機関との連携を図ることができた。	4.0	順調に進んでいる ①障害者相談員の中心的な役割を担う相談員（スーパーバイザー）の育成。自主的に相談に来られない地域の障がい者の方々の把握。コロナ禍における今後の相談者との関わり方の検討。主任相談支援専門員養成研修への積極的な参加。地域の関係機関とできる範囲での連携を図り、相談支援センターから障がい者の相談支援に繋がる方法を検討する。	
					実績	10	11								
					達成度	83%	91%								
					自己評価	3.0	4.0			点					
			高齢者支援課	研修受講回数	目標	—	5	—	—	—	—	認定調査員新任研修（佐賀県）1人、在宅医療・介護連携多職種研修会3人などの研修を受講した。例年実施されている認定調査員能力向上研修（厚労省）及び認定調査スキルアップ研修（民間）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、以前の研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深めた。 各業務の専門性を高めることができ、利用者に寄り添った相談支援が可能となった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①専門的な相談支援を実施するため、経験年数が少ない職員の育成が課題である。今後は研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深める、職場全体のスキルアップを目指す。	
実績	—	2			—	—	—								
達成度	—	40%			—	—	—								
自己評価	4.0	3.0					点								

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況				
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）				
5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	地域包括支援課	目標	-	-	-	-	-	-	-	各専門職が専門性を高めるため、国、県、関係団体等主催の研修（WEB研修を含む）を積極的に受講した。必要に応じて報告会や学習会を行う等課内で情報共有を行ったことで、各専門職のスキル向上につながった	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①専門職の人材不足等に より十分な相談支援体制ができていない。WEB研修の環境整備。人材確保、人材育成、相談支援体制の検討。専門職の人材募集を引き続き行うとともに複数の職員で窓口相談対応ができるような課内の体制を検討する。			
				実績	-	-	-	-	-								
				達成度	-	-	-	-	-								
			自己評価		3.0	3.0				点							
			生活保護課	目標	-	-	-	-	-	-	生活困窮者自立相談支援事業従事者研修などの研修を受講している。研修受講により相談員のスキルアップに繋がりが、相談支援に対する意識の向上が図られたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、研究が中止になったりオンライン受講となることが多かったため、例年よりも受講回数が減少した。	3.0			①生活困窮者に対応するため、各方面の機関と連携が必要であり、それに伴う知識が要求される。相談支援員各々の質の向上のためにも、積極的に研修等を受講することが理想であるが、新型コロナウイルス感染症の影響がある間は、研修会の開催自体が減少するため、受講機会が減少する。 研修会へは可能な限り参加できる体制を構築する。生活自立支援センター内の情報共有を行い、相談支援員のスキル向上に務める。		
				実績	-	-	-	-	-								
	達成度	-		-	-	-	-										
	自己評価		3.0	-				点									
	11	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援業	福祉総務課	目標	-	-	-	-	-	-	唐津市民生・児童委員連絡協議会の活動の強化及び協議会の円滑な運営のため補助を実施し、各地区協議会で研修会などを開催し、民生委員・児童委員の資質向上を図ることができた。		3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①民生委員・児童委員と福祉員が連携した活動の支援を行うため、市社協や地区社協と連携し支援したい。			
				実績	-	-	-	-	-								
				達成度	-	-	-	-	-								
			自己評価		3.0	3.0				点							
12			福祉部門に配置する専門職の雇用	人事課	目標値	3	2	実情に応じて検討				-			所管部による職員増員計画では、社会福祉士2名の原案が示されたところ、UJIターン枠（社会人経験者）で若干名の募集を行い5名の応募があった。採用試験の結果1名を採用した結果、令和3年4月1日で、前年度より1名多い、社会福祉士6名となった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①募集人数に対し応募者数が少ないため、応募者数の確保に向けた取り組みが必要。 ※取り組みの指標で募集数ではなく、必要な社会福祉士の人数などを検討する必要がある。
					実績値	2	1										
	達成度	66%			50%												
自己評価		3.0	3.0				点										
6 権利擁護体制の整備	13	成年後見制度利用支援事業	障がい者支援課【障がい者】	申立件数	目標値	1	3	3	3	3	-	障がい者に関する関係機関からの相談を受け支援会議を開催し、市長申立て手続きを実施中。また、本人の資力等を考慮し後見人報酬の助成を行った。 成年後見等申立て件数 1件（継続中） 報酬助成 3件	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①障がい者支援課と地域包括支援課でそれぞれの窓口で相談を受けており、統一した相談機関がない。後見人の担い手の不足もあり、中核機関の設置による相談から選任までのマッチングが課題となっている。 中核機関の設置に向けた協議を継続して実施する。また、成年後見人の担い手不足の解消に向け、関係機関との連携を図る。			
					実績値	4	1										
				達成度	100%	33%											
				自己評価		3.0	3.0				点						
			成年後見人報酬助成件数	目標値	3	4	2	2	2	-							
				実績値	1	3											
				達成度	33%	75%											
				自己評価		3.0	3.0					点					

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 Ⅲ	福祉サービスの向上のために
--------	---------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標	実績	達成度	自己評価	点	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）						
8 福祉サービスの質と量の充実	16	福祉サービス苦情解決制度	福祉総務課	—	目標	—	—	—	—	—	—	施設ごとに苦情解決責任者、担当者を配置したことにより、社会福祉施設の苦情解決に一早く対応できるよう、体制整備が出来た。また、苦情解決責任者および担当者を中心に普段から利用者の声に耳を傾けるなど、福祉サービスの充実・信頼性の確保に努めた結果、令和2年度の苦情報告件数は0件であった。	4.0	順調に進んでいる	
					実績	—	—	—	—	①苦情につながる前の環境づくりをさらに強化する必要があるため、引き続き、各施設から定期的にヒアリング等を行い、ニーズ等の把握に努める。					
					達成度	—	—	—	—						
				自己評価	4.0	4.0			点						
9 新たな福祉ニーズへの対応	17	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画	保健医療課	健康増進計画及び食育計画策定（統合で策定）	目標値	進捗管理	進捗管理	実態調査	最終評価	策定	—	コロナ感染予防のため健康づくり推進協議会並びに食育推進会議等は開催していないため、新たな福祉ニーズの把握等の検討はできなかった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある	
					実績値	実施	実施			①関係機関や事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。 健康増進計画、食育計画を統合し、令和5年度に策定予定。					
					達成度	75%	50%								
				自己評価	4.0	3.0			点						
			子育て支援課	第三期子ども子育て支援事業計画（R6策定予定）	目標値	第2期策定	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議	実態調査	—	新型コロナウイルスの影響により、子ども子育て会議の開催はできなかったが、書面による事業報告により委員から意見聴取をおこなうことで、各事業に関する質問や意見等を踏まえ、現状の課題整理等につなげることができた。	4.0	順調に進んでいる	
					実績値	策定済	見直しの審議	—	—	①急速な少子化の進行、児童虐待件数の増加、子どもの貧困問題、障がいのある子どもや新しい生活様式の影響への対応の必要性など、事業の見込み値と実情が大きく乖離しないように、子ども子育て家庭を取り巻く環境の変化を重視して、対応していく必要がある。 また、令和5年度に子育て支援ニーズ調査を実施、その結果を基に令和6年度に市の現状と今後の課題を整理し、次期計画を策定する。					
					達成度	100%	75%								
				自己評価	4.0	4.0			点						
			障がい者支援課	からつ自立支援プラン策定（唐津市障がい福祉計画・唐津市障がい児福祉計画）策定	目標値	—	策定	検証	検証	策定	—	第6期からつ自立支援プラン策定のため、当事者へのアンケート実施、北部地域自立支援協議会への意見聴取、パブリックコメントの実施などを行い、計画策定完了に至った。	4.0	順調に進んでいる	
					実績値		策定			①新型コロナウイルスなどの感染症に関する情勢を踏まえ、適宜、計画内容についての見直しの検討が求められる。 令和5年度、8年度からつ自立支援プラン策定予定（3年ごと）、令和9年度第3次唐津市障がい者基本計画、策定予定（10年ごと）					
					達成度		100%								
				自己評価	—	4.0			点						
高齢者支援課 地域包括支援課	高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定	目標値	調査	策定	検証	調査	策定	—	被保険者代表者枠として9名（全26名中9名＝約35%）を計画策定委員会の委員として構成し、介護保険制度におけるサービス利用者（当事者）等の意見が反映されるよう行い、全4回の策定委員会の開催をとおして、当事者の参画及び意見反映の機会を創出することができた。	4.0	順調に進んでいる				
		実績値	調査済	策定済			①被保険者代表者枠の委員は、普段より介護保険制度に触れる機会が少なく、制度の基礎知識が乏しい方もおられるため、意見を発表しづらい環境であるという意見もあった。 次期計画編成における策定委員会においては、少数単位での作業部会等を開催するなどして、制度知識の習得及び意見を出しやすい環境整備に努めたい。								
		達成度	100%	100%											
	自己評価	4.0	4.0			点									

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 Ⅲ	福祉サービスの向上のために
--------	---------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況					
				目標	実績	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）													
9 新たな福祉ニーズへの対応	18	住宅改修費の助成	障がい者支援課 【障がい者】	給付件数	目標	5	5	5	5	5	件	県内他市の状況を把握するため、10市の制度要件調査を実施し、他市との比較を行った。 また、身体障害者手帳の新規又は再交付時、要件対象者へ制度概要を説明している。 10市中2市（佐賀市、鳥栖市）が、基準額（20万円→40万円）を拡充しており、その他本市を含む8市は、20万円である。また、助成回数は制度上10市共に、1回限りとなっている。 手帳交付時の説明において、約2件程度の年度内実施希望者がいたが、新型コロナ関連により次年度以降に申請予定となったため、目標件数を達成できなかった。	3.0	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと） 概ね順調だが、不十分な点が少しある ①下肢障がい・体幹障がいを持つ難病患者など、制度を利用できる対象者に周知ができていない。 病院・保健福祉事務所など関係機関と連携し、身体障害者手帳の新規及び再交付時において、在宅生活を支える住宅改修費助成制度の重要性について、周知に努める。 助成回数について、他市の拡充内容（基準額引き上げ）を参考に関係部署と連携し、研究に努める。					
					実績	4	3												
					達成度	80%	60%												
				自己評価	3.0	3.0				点									
			高齢者支援課 【高齢者】	給付件数	目標	336	336	336	336	336	件					住宅改修費支給申請書が提出された場合、内容を確認し申請内容が適当であれば、住宅改修費（20万円限度）から利用者負担分を差し引いた額を支給した。 介護給付を行うことにより、被保険者が、現に居住する住宅において自立した日常生活を営めるよう支援することができた。	5.0	完了（目標達成） ①内容の審査時に、住宅改修として適当と認められる工事の範囲や、工事の適正価格の判断について、専門知識が必要とされる。審査の公平性に努めたい。 住宅改修費助成（介護保険）の制度（転居した場合や要介護度が3段階以上上がった場合は、支給限度額がリセットされることなど）について周知を行う。	
					実績	334	335												
達成度	99%	100%																	
自己評価	4.0	5.0				点													
19	高齢者住宅改修支援事業	高齢者支援課	助成件数	目標値	48	48	48	48	48	件	介護支援専門員が住宅改修費の給付申請に係る理由書を作成した場合に、作成事業者に謝金を支払った。 居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者においても、住宅改修の申請が容易となった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①介護支援専門員の制度理解のため、周知に努めたい。						
				実績値	25	21													
				達成度	52%	44%													
			自己評価	3.0	3.0				点										

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況					
				目標値	実績値	達成度	自己評価	点	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）										
11 地域活動の担い手の確保と育成	20	地域コミュニティ組織等の活動への支援	国際交流・地域づくり課	NPO法人登録数	目標値	42	43	44	45	46	団体	NPO法人の設立支援や、地域コミュニティ組織である地域まちづくり会議が行う、地域の課題解決に向けた取り組みを支援するため交付金を支出することで、6つのNPO法人の設立及び14地区の地域まちづくり会議の活動を支援した。	3.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある					
					実績値	43	47							①NPO法人の設立は順調に推移しているものの、地域まちづくり会議については、交付金以外の財源がないため持続的な運営が課題である。また、会議を構成する委員が一部の者に固定化しており、活動内容の周知も不足している。さらに、地域まちづくり会議に成熟度のバラつきが見られ、効果的な地域活動となっているか疑義のあるものが見受けられる。その他、地域によっては、防災や福祉の分野においても同様の協議体があり、それぞれの活動に参画することが、市民の負担となっているという意見もある。 ②地域づくりの核となる人材の育成を念頭に事業へ取組んでいたきたい。					
達成度	102%	109%																	
				自己評価	3.0	3.5				点									
21	がんばる地域応援補助金事業（地域の市民活動の育成を図るソフト事業）	国際交流・地域づくり課	新規助成事業件数	目標	20	20	20	20	20	件	市民の知恵又は発想を最大限に引き出し、活発なコミュニケーションを通じて、地域が自らの選択と責任で個性と魅力あるまちづくりを推進する取組みに対し、補助金を支出した。 ソフト事業12件（うち新規4件）、整備事業9件に対し補助金を支出し、市民のつながりを強固にし快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある						
				実績	14	13							①補助対象事業の範囲が広く、市の他の補助金と競合する部分がある。一度採択を受けた事業は5年間に限り補助を活用することができるが、6年目以降の実施状況を調査していないため、自立できたかどうかの検証ができていない。 ②コロナ禍により疲弊した地域コミュニティの活性化を図るため、積極的に事業を実施していただきたい。						
				達成度	70%	65%													
				自己評価	3.0	3.0			点										
12 福祉ボランティアの推進	22	唐津市ボランティアセンターの運営支援	福祉総務課	ボランティア講座数	目標値	6	6	7	7	7	講座	市民を対象とするボランティア養成講座や学校を対象とするボランティア体験講座等の活動、民間ボランティア団体への活動支援等に対し、補助支援を行なった。 ボランティア活動を通じて様々な方との交流の場が増えたことで、生きがいづくりや健康増進に繋がっている。また、養成講座等により地域を支える担い手づくりが出来ている。 R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座等の一部を中止したが、養成講座やボランティア活動等を収めたDVDを介護施設等へ配付することで、ボランティアへの関心や意識を継続させることが出来ている。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある					
					実績値	10	6							①新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、講座や活動のやり方など新たな課題となっている。コロナ禍におけるボランティアのマッチングを適切に行い、必要とされる場所でボランティア活動が活かせるよう、取り組み必要がある。また、災害ボランティア講座や研修等を増やし、災害時にスムーズに対応できるような仕組みづくり、運営マニュアル等の作成、危機管理防災課との連携を検討する。					
					達成度	167%	100%												
				ボランティア講座への参加者数	目標	180	180	200	200	200	人								
					実績	155	17												
					達成度	86%	9%												
				ボランティア連絡協議会会員数	目標	4,200	4,200	4,230	4,230	4,230	人								
実績	4,200	3,764																	
達成度	100%	90%																	
				自己評価	4.0	3.0			点										
23	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援	高齢者支援課	相談件数	目標	100	100	110	110	110	件	共生社会構築の拠点の「総合窓口」として、情報提供や相談など市民の出会いの場を提供した。 団塊の世代が中心となるシニア世代をはじめとした一般市民を対象に、持ち前の技能を活かした活動やボランティア活動へのマッチング、登録した人材情報の活用等を行うことで、市民の新たな活動の場を広げることができた。	2.0	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い						
				実績	100	26							①事業内容の周知が不足していることから、市報などに利用者の活動状況やコメントを掲載するなど、周知方法を検討する。						
				達成度	100%	26%													
			ボランティア派遣件数	目標値	70	70	75	75	75	件									
				実績値	60	16													
				達成度	86%	23				点									
				自己評価	4.5	2.0				点									

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和2年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標	実績	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）									
12 福祉ボランティアの推進	24	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進	地域包括支援課	ボランティア登録者数	目標	200	210	210	210	210	人	ボランティア活動を行う者として市に登録を行った唐津市に住む65歳以上の高齢者（要支援または要介護認定者を除く）が、市が指定する介護施設などでレクリエーションやお茶出しなどのボランティア活動を推進した。 活動に対してはポイントが付き、ポイントに応じて現金に換金して交付金として市が交付した。 高齢者の社会参加や地域貢献の機会を広めただけでなく、ボランティア活動者の介護予防につながった。 R2年度ボランティア実績（参加者）94人	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①制度の認知度を高めるための啓発やボランティア活動場所の拡大。ボランティア活動登録者とボランティア活動受け入れ事業所を拡大させ、介護予防を推進していく。 また、介護施設だけではなく地域での介護支援ボランティア実施を検討していく。 ②誰でも気軽に参加できるボランティア制度を地域の中でも広げてもらいたい。	
					実績	258	142								
					達成度	129%	58%								
				ボランティア活動指定施設数	目標値	120	130	130	130	130	施設				
実績値	128	130													
達成度	107%	100%													
自己評価	4.0	3.0					点								
13 地域福祉に対する意識の啓発	25	地域福祉の啓発	福祉総務課	—	目標値	—	—	—	—	—	—	市ホームページ上にて「地域共生社会」の実現について、その求められる背景や市の取り組みについて啓発するページを引き続き掲載した。 誰もが共に支え合う地域社会づくりの一助となるフードバンク活動について、令和元年度はふれあい福祉まつりにおいて啓発活動を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となったことから、市報（10月号）やホームページ、FMからつ（1月）での広報に留まった。	3.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①ホームページ上での情報を充実させる。市報などほかの媒体での意識啓発について検討を行う。 ②地域共生社会やフードバンク活動の周知をお願いしたい。	
					実績値	—	—	—	—	—					
					達成度	—	—	—	—	—					
				自己評価	4.0	3.5				点					
26	認知症サポーター養成講座の開催	地域包括支援課	講座受講者数	目標	570	626	200	200	200	人	公民館等で認知症に関する正しい知識の普及、対応の仕方について認知症サポーター養成講座を開催した。（11回、初回受講者196人、2回目以降16人 合計212人）新型コロナウイルスまん延の影響もあり、計画をしても中止になることがあったが、感染対策をとりつつ若年層への講座にも取り組んだ。（4回、受講者95人） 受講後のアンケート結果によると、「症状を理解できた」と回答した者は95.9%、「対応を学ぶことができた」と回答した者は98.0%に上り、受講者の大半の方が認知症に対する理解を深めることができた。また、認知症の人への対応の仕方について実践したいという感想もあった。R3年3月末時点のサポーター総数6,459人	2.0	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い ①感染症対策を講じつつ、少人数でも講座を開催し、認知症サポーター養成講座を受講後に地域で活動できる場を作る必要がある。高齢者見守り事業所に対し周知をおこない、講座を開催する。今後も若年層向けの講座の開催を重点的に行う。講座を受講した人にボランティア等の意思の有無を確認し、地域での活動へつなげる。 ②養成講座を受講した方がさらに知り合い等に講座を広めてもらうことで受講者をさらに増やしてほしい。		
				実績	579	196									
				達成度	102%	31%									
			講座実施回数	目標値	30	35	20	25	25	回					
実績値	25	11													
達成度	83%	31%													
自己評価	4.5	2.0					点								
27	総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進	学校教育課	実施校数	目標	53	53	53	53	53	校	各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験などを行った。 （例：【虹の松原分校】手話体験 【七山小中】車いす体験、サウンドテーブル tennis 体験 【入野小】ポッチャ体験 【大志小】UD体験教室 【長松小】盲導犬講座等）	2.0	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い ①体験学習等の実施に係る時間等の確保に向け、各学校への啓発を行いたい。 また、コロナ禍における感染予防対策や学習時間の確保が課題となっており、福祉教育を推進するにあたり、取り組み内容についても検討が必要となっている。		
				実績	37	13									
				達成度	70%	25%									
			自己評価	3.0	2.0				点						